



日産合成工業株式会社 メールマガジン

2017年02月 第121号



皆様 立春とは申しませんが、まだ寒さ厳しき日が続いております。

関東では年末から新春にかけて穏やかな天候に恵まれましたが、北海道では寒波が断続的に招来して交通マヒを招いているとかで、まだまだ油断できない今日この頃です。

立てば芍薬、座れば牡丹と言われてるように美女の代名詞のような華やかな花ですが、年明け早々に、上野東照宮の寒牡丹を見に行ってきました。境内の庭園には百株を超える寒牡丹が色とりどりに咲き誇っており、しばし夢の宴のような気分を味わいました。今の時期に咲かせる技術には、培われた歴史ある匠の技があり、我々にはまねのできないものがあります。寒牡丹は冬の寒さや風雪などから守るために、藁ボッチがかけられていますが、赤い唐傘に映える牡丹と後ろに控える五重塔に思わずシャッターを押しました。日本ならではの風景でしょうか。



「そのあたり ほのとぬくしや 寒ぼたん」高浜虚子

と詠われているように、ロウバイや寒紅梅なども華を添えており、一足早い初春を味わうことができました。牡丹と芍薬の産地としては、島根県の中海に浮かぶ大根島（松江市八束町）が有名で、苗木の大部分を生産していると聞いています。その昔、五月の連休に訪問したことがあります。一面の苗木畑と藁で屋根がけした朝鮮人

参畑が広がっていました。関東ではつくば市にある荃崎霊園の牡丹園が有名で、その霊園には初恋、松山行きフェリーなどのヒット曲がある村下孝蔵が眠っています。

上野東照宮は1627年（寛永4年）、津藩主藤堂高虎と天台宗僧侶天海僧正により、東叡山寛永寺境内に家康をお祀りする神社として創建され、1646年（正保3年）には正式に宮号を授けられ「東照宮」となりました。現存する社殿は1651年（慶安4年）に三代将軍・徳川家光が造営替えをしたもので、江戸の面影を現在に残す貴重な文化財です。徳川家康は現実主義者で、戦いに際しては負ける時もある。その退却するに際し、騎乗と川を泳ぎ渡る水泳については、家来の手助けがかなわず自ら修得しなければいけないとし、子供や家光ら孫達には積極的に水泳を習わせたとの逸話が残っています。なかでも尾張藩の光友は水泳大好きで、9歳で大井川を泳いで渡ったり、江戸に来ると八丁堀に飛び込み、立ち泳ぎでお膳を食べて見せて、観衆を喜ばせたとのこと。このように初期の徳川将軍達は生き生きと生きたが、その後は奥で品よく育てられて、水泳をする事も無く、つまらなくなるとも言われています。「初心忘れるべからず」を自戒としていきたいものです。

さて、ニッサンメールマガジン第121号をお届けします。

## 鳥インフルエンザの警戒

平成28年11月28日に青森県において、今年度、家きんでは国内初となる高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認され、平成28年12月1日に高病原性鳥インフルエンザ（H5N6亜型）であることが確認されました。平成29年2月8日現在、7道県10戸の農場で高病原性鳥インフルエンザが確認されています。家きん飼養農家を含む畜産関係者の皆様方におかれましては、改めて飼養衛生管理の徹底や異常家きんの早期発見に万全を期していただくことが重要です（農水省）。

高病原性鳥インフルエンザに関する情報（環境省）野鳥における高病原性鳥インフルエンザ確定件数（飼育鳥類、糞便、水検体含む）は2017年2月7日 9:30現在 20道府県 211件となっています。

## 畜産をめぐる情勢分析（平成28年度末）

農水省では平成28年12月に畜産をめぐる情勢分析について公表しました

([http://www.maff.go.jp/j/chikusan/kikaku/lin/l\\_hosin/index.html](http://www.maff.go.jp/j/chikusan/kikaku/lin/l_hosin/index.html))。

生乳換算で27年度の総供給量は1192万トンであり、国内生産が741万トン、輸入乳製品が463万トンとなっています。飲用等向け処理量は減少傾向で推移しています。一方、乳製品向けについては、脱脂粉乳・バター向け生乳処理量が低下しましたが、生クリーム等の液状化乳製品向けが拡大し、乳製品全体の仕向量は、ほぼ横ばいで推移しています。

乳用牛の飼養戸数は、年率4%程度の減少で推移しており、平成28年度は飼養戸数1.7万戸、飼養頭数134.5万頭となっています。子牛の価格ですが、繁殖雌牛の減少により分娩頭数が減少したことに加えて、枝肉価格が上昇したことにより、28年度第2四半期において黒毛和種81万、乳用種22万、交雑種40万と20年来の高価格となっています。

## 米国農務省穀物等需給報告（1月13日公表）

米国農務省は、1月12日（現地時間）、2016/17年度の9回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表しました。その概要は以下のとおりです。

－2016/17年度の穀物及び大豆の生産量は消費量を上回る見込み－

### 1.世界の穀物全体の需給の概要（見込み）

- (1)生産量 25億6,036万トン（対前年度比 4.2%増）
- (2)消費量 25億3,722万トン（対前年度比 4.3%増）
- (3)期末在庫量 6億2,582万トン（対前年度比 3.8%増）
- (4)期末在庫率 24.7%（対前年度差 0.1ポイント減）

〈とうもろこし〉

生産量は、中国で国家備蓄政策廃止及び国内価格低下に伴う播種面積減により減少するものの、米国で中西部の多くの州で単収が前年度を上回り増加、ブラジルでも収穫面積の増加も見込まれること等から、世界全体では史上最高となる見込み。また、消費量は、米国、中国等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回るものの、期末在庫率は前年度より低下。

- (1)生産量 10億3,793万トン（対前年度比 8.0%増）・米国、ブラジル、アルゼンチン等で増加、中国等で減少
- (2)消費量 10億2,696万トン（対前年度比 6.9%増） ・米国、中国等で増加

- (3)期末在庫量 2億2,098万トン（対前年度比 5.2%増）・米国等で増加、中国等で減少  
(4)期末在庫率 21.5%（対前年度差 0.3ポイント減）

## 2.世界の大豆需給の概要（見込み）

生産量は、米国で単収の上昇から増加、ブラジルでは適期の降雨による単収の上昇から増加、中国では政策変更によりとうもろこしから大豆への播種転換の促進等から、世界全体では前年度を上回り史上最高となる見込み。また、消費量は、中国等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- (1)生産量 3億3,785万トン（対前年度比 7.8%増）・米国・ブラジル等で増加  
（前月に比べ、ブラジル等で上方修正）  
(2)消費量 3億3,034万トン（対前年度比 4.7%増）・中国等で増加  
(3)期末在庫量 8,232万トン（対前年度比 6.6%増）・米国等で増加、中国等で減少  
(4)期末在庫率 24.9%（対前年度差 0.5ポイント増）

---

## お知らせ

### 印刷用の PDF ファイル

本メールマガジンでは印刷用のPDFファイルを添付してあります。PDFファイルをご利用いただくためには、Adobe Readerが必要です。お持ちでない場合、[こちらからダウンロードし、インストールしてご利用ください。](#)

### メールマガジンへの登録・質問等

メールマガジンの配信の停止、登録内容の変更等は[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

このメールマガジンへのお問い合わせ、ご意見・ご要望等、並びに技術的な問題等がございましたら、[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

### アドレス変更をお忘れなく

人事異動、転退職等でメールアドレスが変更になった場合で、引き続き日産合成工業株式会社のメールマガジンの配信を希望される方は、旧アドレスと新アドレス及び新所属等を[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。配信できなくなったアドレスは、メーリングリストから自動的に削除しておりますので、よろしく願います。

また、今後の配信が不要な場合にも[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。